

夏枝母枝型ハウスミカンにおける樹体内成分と着花との関係

中西正憲・大谷 衛・坂下 亨・森末文徳・山下泰生

香川県農業試験場研究報告 第56号(2003年10月) 35-42

11月中旬から12月上旬にかけて加温を行う、夏枝母枝型ハウスミカン園地において、樹体内成分を測定し、加温後の着花数との関係を検討した。

- 1.加温開始時の夏葉及び夏枝中のデンプン含量及びデンプン/N値が高ければ、加温後の総着花数及び直花数は多くなり、新梢数は少なくなる。
- 2.加温後に十分な着花数を得るためには、緑化完了60日後の夏葉中デンプン含量値が5.0%以上必要である。
- 3.加温後に十分な着花数を得るためには、加温開始時期の夏葉中デンプン含量値が5.0%以上必要である。

キーワード：ハウスミカン、樹体内成分、デンプン含量、夏葉、着花